

# 第3回山元町震災復興有識者会議

開催日時:平成23年8月28日(日曜日)

13時00分～15時00分

場 所:山元町役場中央公民館 大ホール

## ○委員一覧

	所属等	氏名	専門	備考
1	東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター長	今村 文彦	防災、津波	宮城県震災復興会議 石巻市復興ビジョン懇談会 岩沼市震災復興会議
2	宮城県建築住宅センター 理事長	三部 佳英	技術士(都市及び 地方計画)	
3	東北学院大学教養学部 地域構想学科 教授	柳井 雅也	経済地理学	石巻市復興ビジョン懇談会
4	東北工業大学工学部 建築学科 教授	石井 敏	建築、高齢者施設	
5	(有)ダハプランニングワーク 代表取締役	吉川 由美	文化、教育、観光	
6	国立病院機構宮城病院 病院長	清野 仁	医療	
7	岩手大学農学部 共生環境課程 教授	広田 純一	農業	東日本大震災復興構想会議

○会議の流れ

1 開 会 (山元町震災復興推進課 課長 鈴木光晴)

2 あいさつ 齋藤俊夫町長 あいさつ

3 第3回震災復興有識者会議

(1)今回欠席者の報告

今村文彦様(東北大学大学院工学研究科 災害制御研究センター)、吉川由美様(ダハプランニングワーク)は今回欠席。(2)資料の確認

(2)議事概要

三部座長	各委員、ご意見をお願いしたい。
<b>【事務局による「復興まちづくり土地利用構想(案)」「土地利用構想実現のための手法の例」について説明】</b>	
三部座長	<p>本日の資料で、本日欠席の今村先生からまちづくりについての4つの視点として、持続性、多重性、明確性・透明性、多様性が示されている。持続性については、町のコミュニティを含めて考えた方がよい、多重性については避難計画の多重性が大切、明確性・透明性については特にゾーニングの明確化が大切、多様性については被災者の生活再建を含め時間的見通しを早くたてた方がよいということだと思う。</p> <p>委員に危険区域、避難計画についてのメールが2点あったので、説明をお願いしたい。</p>
事務局	<p>災害危険区域の構造についての考え方については、1種は住宅建築を禁止、2種3種は、宅地造成面の嵩上げや建物基礎を鉄筋コンクリート造にする等により財産を守る。具体的区域については町民の意見を聞きながら進める。</p> <p>避難計画については、今回の構想において避難路等のハード面の記載はあるが、ソフト面は今後検討して加えていきたい。</p>
三部座長	ありがとうございました。重要な事項からご意見をお願いします。
柳井氏	<p>今回かなり具体化され、前回あいまいだった市街化形成の考え方が今回クリアになった。開発候補地の検討において、浸水深等6次のフィルターと地域コミュニティの形成経緯は評価してよいことだと思う。山下・坂元のアイデンティティを残し、中間に病院福祉施設を置くことは、空間配置として評価したい。</p> <p>雇用施策が重要。雇用創出の仕組みづくりをしないと人口減に追い込まれることになる。基幹産業としてイチゴ、ホッキ貝、米が位置付けられているが、もう一つ重視したいのが、加工部門。例えばイチゴパウダーとして和菓子等への利用可能。また、冷凍技術により販路の西日本までの拡大が考えられ、観光農園だけでなく、道の駅、地産地消型の宅配事業、また互理町と連携したブランド化の仕組みづくりが考えられる。加工と販路が雇用につながる。水産業も冷蔵を織り込むと安心だと思う。</p> <p>モニュメントについては、避難や水食料など備蓄できるといった実用性を備えたものにも一つのアイデアだと思う。</p>
三部座長	産業振興について、計画の位置づけにあればお示しいただきたい。
事務局	現在、基本方針に基づき詳細な計画作業を進めている。ハード面の再生を先行しており、ソフト面の事業は必要となってくると思うが現時点でお示しできない。

三部座長	今日は産業、生活の基礎の部分の提案ととらえます。
広田氏	<p>土地利用構想図について、柳井先生とほぼ同じ意見。町の基本方針を具体化するとこのような図になるのだと思う。基本方針を踏まえたものとして良いと思う。常磐線を陸側に振って2つの交通拠点を新駅に求める考え方も土地利用計画として順当と感じた。</p> <p>開発振興については書き込まれておらず、6次産業というキーワードがあるが、別途検討ということなので、今回は触れない。</p> <p>記載の順序についての意見として、基本条件でまず安全な町をつくと書いているので、最初に資料1のP.2にある(3)①多重防御による津波対策の記述、二番目に交通網として重要な常磐線の位置についての記述が来る方が納まりがよい。</p> <p>防災緑地ゾーンは、先人が住んだ証を丁寧に残していく必要があり、そのことにより山元らしさとして観光資源にもなっていくと思う。</p> <p>同じく資料1のP.2(3)③既存財産の有効活用について、津波危険がある農地では国で補償措置をとる必要があるという議論もあり、また防災緑地ゾーンにおいて現在の状態では農地としては使えないため、防災緑地ゾーンで農地利用を続けるならば、なんらかの工事が必要である。</p> <p>資料1のP.2(4)で農地を産業用地と呼ばれるのには抵抗があり、農用地という言葉で独立した方がよい。</p> <p>開発候補地抽出の考え方は論理的で良い。3次フィルターに農地を入れてほしい。農家は農地、特にハウスの近接性が必要。</p>
石井氏	<p>土地利用構想は基本方針を踏まえており妥当。フィルターは客観性も踏まえており良い。</p> <p>浸水深2mは客観的数値としてわかるが、1000年先を見越したまちづくりは無理であり、建物の耐用年数が30年、50年というレベルであることもあり、1000年に1回か100年に1回か、どの位のリスクに対応したものとするか、計画への反映の仕方の考え方を詰めた方がよい。これは住民説明にも必要。</p> <p>JRの位置もポイントとなる。駅があるから住む人もいるから、鉄道との距離感は重要。鉄道を仮設で整備するものもあるべき姿だと思う。JRは民間で仮設はできないと言っているが、人の暮らしを支えるためにJRの仮設整備を模索することも必要。</p> <p>医療福祉の拠点整備は大事だが、機能集約はどうかと思う。むしろ医療福祉の住民サービスは分散した方がよい。特別養護老人ホームをサテライトで分散配置することは制度上可能。居住地の近くにサービスをできたら良い。住宅だけではまちは成り立たない。医療福祉、公共サービスの配置が見えてくると、住民にとって、まちのイメージができてくると思う。</p> <p>高齢者配慮は見えるが、子供、子育てできるサービスの記述が弱い。保育所、児童館といった若い世代が魅力的に感じ、居住したいサービスをまちづくりに反映していくと良い。</p>
三部座長	浸水深2m、1000年に1度のリスクに対応することとすることといった、このあたりの考え方についてお聞きしたい。
町長	防災について、あるべき姿と費用対効果をどう折り合いをつけるかということだが、堤防だけで防ぐことは不可能だと言われており、減災をキーワードとしている。1000年に1度のリスクへのパー

	<p>フェクトな対応は難しい。建物の耐用年数を踏まえた考え方が大切。多重防御で 100 年に 1 度のリスクへの対応が最低限必要だと考えている。</p>
清野氏	<p>グランドデザインが具体的になってきた。土地利用については先生方に議論をお願いしたい。第 2 回と同じようだが、少しイメージが変わった。</p> <p>基本的理念は「チーム山元、心を一つに」だと思う。山元町成立の経緯から、山下と坂元の地域性の違いを聞いてきた。構想案では 2 局化が進むのではないかと思う。「チーム山元、心を一つに」の理念が実現するとよい。</p>
町長	<p>旧村意識、確執などはないと思うが、意識の中には若干あるかと思う。</p> <p>私の言うコンパクトシティは、22 の集落が分散し、中心が見えない状況で、今までよりは、コンパクトという思いはある。高齢化、人口減少を踏まえ、強くしていかない一方、すぐにコンパクトにするのは無理であり、一局集中するのは現実的ではないと思う。</p>
三部座長	<p>地区計画の対象地区の考え方の基本についての考えはあるか。</p> <p>防災集団移転促進事業で、移転促進区域内の土地の買い取り価格の考え方についての考えはあるか。</p> <p>応急仮設から災害公営住宅に入りたい方がいると思う。災害公営住宅について、スピード感がほしいがどう考えているか。</p>
事務局	<p>地区計画については、既存山下駅集落西側エリアを想定している。津波被害にあって残存、撤去が混在する地区で、狭隘道路の拡幅に考えているが、区域は柔軟に考えていく。</p> <p>移転促進区域内の土地の買い取り価格はまだ決まっていない。国の事業スキームが明確になった時点で示したい。</p> <p>災害公営住宅は、今年度早期に準備しており、部分的にはあるが、来年度末に一部入居と考えている。</p>
副町長	<p>事業は現在のものを示している。土地利用構想で、浸水深を踏まえ、一部は非居住、一部は制限する中で、地区計画の活用を考えている。災害公営住宅の入居期間・入居条件について、これまでは誰でも入居できる期間は発災後 3 年間としているが、今回の被災規模でどうするかは、国・県と相談していきたい。</p>
清野氏	<p>2000 人、高齢者・障害者は 800 人が仮設に入居している現在、チームを派遣して健康管理をしたいと考えている。</p> <p>宮城病院は 20 万㎡、7 万坪で、その中には未利用地、遺跡もある。調査は必要だが、医療福祉地区として、協力して活用してほしい。養護老人ホームがなくなったため、早期建設が必要と考えている。宮城病院には老人健康施設も併設したい。</p>
柳井氏	<p>津波が坂元側から山下方向に入ったことを考えると、震度にもよるが坂元側を厚く防御した方がよい。防潮林や屋敷林で囲むことを考えるとよい。</p> <p>当面は 2 つの集落でやっていくしかないと思う。将来的に 1 つにまとめていくかというところで、進化していくまちづくりのシナリオを別につくるとよい。福祉は分散もよいが、高度医療は集約した方がよく、使い分けするとよい。</p> <p>災害に強いエネルギーも考慮し、災害に強いまちづくりを明確にした方がよい。</p>

石井氏	<p>今回資料の住宅事例がまちのイメージとして示されていると思う。災害公営住宅は通常コンクリート中層だが、資料では木造、戸建てで特色がある。山元町らしい住宅のあり方、住まい方を丁寧に検討してつくってほしい。</p> <p>山古志村では、安く良質な住宅を提供する仕組みとして、地元組織が良質なプロトタイプを提案し、それをベースとした。住宅はまちなみを作る要素の大きなひとつなので大事であり、産業の活性化につながる住宅づくりの仕組みづくりができればよい。</p> <p>仮設に出向く医療サービスはよいと思う。仮設後も地域に展開する医療の仕組みができることに期待する。</p>
広田氏	<p>住民との合意形成の進め方が重要。他の市町村では、自治会を通じた意見収集、地区に復興まちづくり委員会を設けた意見収集、自治会を解散したところでは何らかの組織体制が必要となっている。移転先の住宅の位置等は大切であり、これらのことについて、女性、若者、子育て世代等、地元の多様な方々により復興まちづくり委員会を作って協議しながら進めていく仕組みがあるとよい。</p> <p>手法に土地改良事業も加えたらどうかと思う。</p>
三部座長	<p>今回は、土地利用構想図、実現する手法が示された上で、産業活動、住まい・生活、保健・医療・福祉、時間軸について議論された。農水省、厚生省、経産省の事業制度も有効活用したらいかがかと思う。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。有識者会議は今回の開催をもって全日程が終了となります。構成員を代表して三部理事長よりごあいさつを頂戴できればと思います。</p>
三部座長	<p>今回まで3回、産業、福祉、交通、まちづくり等幅広く、専門家から意見が出された。今回土地利用構想が示され、まちづくりの姿が見えてきたのではないかと思います。適地調査等、丁寧に分析がなされていると思う。</p> <p>計画は実現するためのシナリオであり、誰が、どういう目的で、何を、どうやって、いつまで行うか、その中で出される課題をどう解決するかの共有が必要。実施計画が今後つくられていくが、被災者の思いを把握し計画をつくり実行する必要がある。国、県、JRが関わって、町、町長が進行管理していくことが大事。今後、専門委員会でもより深めていってほしい。</p> <p>これからの復興に向けた努力を祈念する。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。今後よりよい復興計画策定に向け、別の場面でご意見をいただけたらと思います。</p>